

第34期第1回研究会「視聴者と番組間の相互作用への探求：視聴者の番組への関わり方の類型化の試み」（理論研究部会企画、立教大学社会学部メディア社会学科との共催）終わる

日 時：2013年12月14日（土）14:00～16:00

会 場：立教大学池袋キャンパス11号館1階A101教室

問題提起者：陳 春富（台湾・輔仁大学准教授、立教大学招聘研究員）

司 会：黄 盛彬（立教大学社会学部）

参 加 者：15名

記録執筆者：李 光鎬

本研究会では、台湾の若い視聴者に対する深層インタビューから帰納的に導き出された4つのオーディエンス・エンゲージメント (audience engagement) の類型について報告がなされた。問題提起者は、6つの異なる国や地域（アメリカ、日本、韓国、シンガポール、中国、香港）から輸入されたテレビドラマなどのフィクション番組を、台湾の若い世代がどのように視聴しているかを調べることで、視聴経験の実態、視聴の動機、得られた満足を明らかにすると同時に、「視聴者と番組との関わり方」について類型化を試みている。インタビューの結果、若い世代の海外フィクション番組視聴者たちは、個人的なレベルにおいては、視聴者－テキスト間相互作用 (viewer-text interaction)、視聴者－登場人物間相互作用 (viewer-character interaction) を行っており、集合的なレベルにおいては、視聴者－メディア間相互作用 (viewer-media interaction)、視聴者－視聴者間相互作用 (viewer-viewer interaction) を行っていること、そしてこれらの相互作用から、(1) 審美的エンゲージメント、(2) 擬似社会的相互作用エンゲージメント、(3) 間テキスト的エンゲージメント、(4) ソーシャル・ネットワーキング・エンゲージメントという4つの種類の関わり方が析出されたことが示され、それぞれの類型の特徴について説明があった。報告の後、海外ドラマの内容理解における文化的問題や視聴による影響などについて台湾（の視聴者）の状況を確認する質問がなされた。そして析出された類型の妥当性をめぐる問題、例えば間テキスト的エンゲージメントとして分類された視聴（関連）行為に対する解釈の問題などについて理論的な側面から議論がなされた。また、海外ドラマだけでなく、様々なエンターテインメント・コンテンツに対するオーディエンスの関わり方の分析にも応用できる、大変刺激的な類型化のアイデアであるとの評価が参加者の間で多く聞かれた。